北　國　新　聞

カンボジアから友好勲章

金大・塚脇教授

アンコール遺跡保全30年

1992年からアンコールワットで有名なアンコール世界遺産で環境保全と住民の生活向上に取り組む金大の塚脇真二教授(63)が6日までに、サハメトレイ勲章(カンボジア王国友好勲章)を贈られた。専門の地質学を越えて、国連教育科学文化機関（ユネスコ）などと協力し、日本とカンボジアの懸け橋となったことも評価された。塚脇教授は「できることを今後も続けていく」と話している。

外国人で最高位

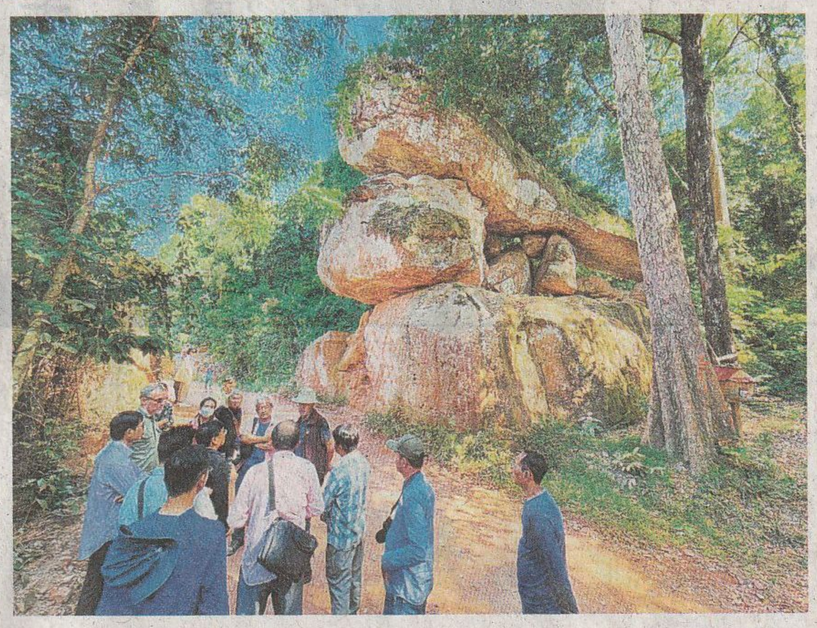
贈られたのは、カンボジアの国王と国民のために傑出した貢献を果たした外国人へ与えられる最高位の勲章「マハ・シルヴッダ」（大十字章）。昨年12月17日にアンコール遺跡のあるシェムリアップ州で世界遺産登録30周年記念式典が行われ、マエン・サムオーン副首相から授与された。

塚脇教授は、炭鉱の町で知られる福岡県大牟田市の出身。太平洋や日本海、双方の沿岸部の地質について長年調べ、2010年に金大教授となった。北國新聞社が昨年12月に発行した「石川県ビジュアル150年誌」では、手取川や能登金剛など県内19市町の地形や地質の特徴について記している。

アンコール遺跡との関わりを持ったのは、懇意にしていた、石澤良昭上智大アジア人材養成研究センター所長に誘われたのがきっかけ。遺跡の地盤沈下対策を皮切りに、現在は、7人しかいないアンコール世界遺産国際管理委員会特別専門家委員の1人として、遺跡の環境保全と、道路整備など開発のバランスが取れるよう現地で助言している。

塚脇さんによると、遺跡周辺の人口はかつて5万人だったが、現在は15万人まで拡大。観光客も国外に加え、国内の経済発展により国内客が増加し、コロナ前は500万人まで増えている。一方、観光客目当ての過度の開発や人口流入が目立つなど、課題も山積しており、日本とフランスによる支援が今後10年続く予定となっている。

塚脇さんは2018年には、教育や科学、司法などの功労者に贈られる「ロイヤル・モニサラポン勲章」を受章している。塚脇さんは「いつまで続けられるか分からないが、やれることをやるという姿勢は今後も変わらない」と語った。



上 勲章を贈られた塚脇さん ＝カンボジア
下 奇岩を残しての道路建設のため、現地を視察する塚脇さん（写真中央）
（いずれも塚脇さん提供）